

歩いて知る、北本の里山

私の里山ライフ 番外編

もっと里山について
知りたいあなたへ

北本の里山は、歩いて回れる範囲に
北本の地形・歴史や自然環境を体感できる
スポットが集まっています。
里山を長年歩き続ける磯野治司さんに
案内してもらい、実際に散策してみました。



市民リポーター
岩崎 夏実さん
現役大学生の新人市民
リポーター。シェアキッ
チン「ケルン」を取材し、
フリーペーパーを作る
など伝えることが好き。

里山案内人
磯野 治司さん
文化財保護の市職員。
地域の自然や歴史が大
好きで、北本の里山の
動植物や地形、歴史に
とっても詳しい。

市民リポーター
太田 珠羅さん
社会人1年目の新人市
民リポーター。誰もが
立ち寄れる夜の居場所
「夜な夜ならぼ」の開
催など地域で活躍中。

谷津の湿地や斜面林、 豊かな湧き水を残す里山 宮岡の谷津 (高尾宮岡の景観地)

阿弥陀堂に次いで標高が高い台地を、
谷津が深く浸食したことで形成された
里山。斜面林や豊かな湧き水に恵まれ、
希少な動植物の宝庫となっています。
この環境を残すため、市民や企業等
からの寄附をもとに県がこの土地を買い
取り、「緑のトラスト保全地」として
保全・管理されています。



秋ごろの風景
右側の湿地に昔は田んぼが広がり、ツミ田と
いう珍しい稲作が行われていたそうです。

北本のパワースポット 高尾氷川神社・ 厳島神社・荒井須賀神社

旧高尾村と旧荒井村の境だったことから高尾氷川
神社・荒井須賀神社が隣接しています。厳島神社
には、江戸で弁財天を庭に祀っていた商人の中島
屋久四郎が、夢枕に立った弁財天のお告げに導か
れてこの地に祀ったという伝説が残されています。
この三神社の東側には宮岡氷川神社前遺跡があり、
通称「きたもっちゃん」土偶が出土しています。



須賀神社は牛頭天王を祀っています。天王様の紋が
キュウリの切り口に似ているためにキュウリを「つ
くらない、食べない」という風習があったそうです。

里山歩きを 終えて…



湧き水が冷たくて気持ちよかったのが一
番印象に残りました！人の手が入らない
と環境が変わってしまうことも初めて知
りました。いろんな人が自然に興味を持っ
てくれたらいいなと思います。



北本駅の周辺と全然違う環境でびっくり
しました！知らない入っているかわ
からないような場所も入ることができて
新鮮でした。「小豆とぎ婆」の話が面白か
ったです！

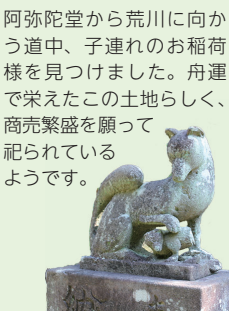
北本最後の“楽園” 北袋の谷津（通称：とんぼ公園）

湿地を雑木林が囲み、奥には梅林を
望む里山。休耕田が増えていくなか、
地元住民が景観保全のために手入れ
をするようになり、その際に「とん
ぼ公園」と名づけられました。現在は、
近隣の保育園が中心となって保全・
管理を行っており、子どもたちの遊
び場に生まれ、有志の人たちが谷津
田をつくっています。ここだけで多
くのトンボやヘイケボタル、準絶滅
危惧の「タコノアシ」「ミクリ」等
の希少植物が自生しています。

※北袋の谷津は民有地のため、一般公開はされていません



オニグルミの実を発見！
北本の縄文人たちもクル
ミを食べていました。



阿弥陀堂から荒川に向か
う道中、子連れのお稲荷
様を見つけました。舟運
で栄えたこの土地らしく、
商売繁盛を願って
祀られている
ようです。

ここが北本の最高地点！ 阿弥陀堂

北本には源頼朝の弟である範頼とその
妻・亀御前が暮らしていたという伝説
があります。範頼が修善寺に幽閉され、
その後亡くなったことを知った亀御前
が悲嘆にくれて自害したことを地元の
人たちが悼み、供養するために建てた
と伝えられているのがこのお堂。ここ
には1,000基以上のお墓があり、市
内最多。この高尾の地は、かつて河岸
場として江戸への物資輸送の拠点とな
り、商人や職人が集住し、市内きって
の町場として栄えていたそうです。



◀阿弥陀堂の鐘楼から見える風景。



市の野鳥
カワセミ

最初に訪れたのは、高尾さくら公園
近くの「阿弥陀堂」。川口市から鴻巣
市まで広がる「大宮台地」に位置す
る北本市の最高地点が、ここにある
とのこと。布袋尊像の近くの標石は
標高32・8mを表しているそうです。
「ここには『小豆とぎ婆』の伝説が残っ
ているんですよ」と磯野さん。阿弥
陀堂の北側に谷があり、そこを流れ
る清水の音が小豆を研ぐ音に似てい
たことから、「小豆とぎ婆が出るぞー！
と言われていたとか。
荒川沿いの河岸場跡に出ると、田ん
ぼが広がる気持ちのいい景色。そこ
で、オニグルミやクズの花を観察しま
した。桶川方向に歩き続け、サンア
メニティ北本キャンプフィール
ドに入ります。ここでは「カワ
セミ」をよく見かけるとのこと！
一息ついて、向かいの「高尾宮岡
の景観地」の谷津へ。谷津とは、湧
き水が台地を浸食してきた谷の地
形をいいます。宮岡の谷津は、谷底
には湿地が広がり、斜面には雑木林
が残されています。昔はこの湿地で
田んぼが作られていたそう。
「北本には、この宮岡の谷津の他に
八重塚の谷津（現在は北本自然観
察公園）、北袋の谷津が残っていま
す。谷が深く幅が狭く、開発さ

れにくかったため、今でも湧き水や湿
地が残し、貴重な動植物の生息地に
なっているんです」と話す磯野さん。
宮岡の谷津をさらに進むと、高尾氷
川神社・厳島神社・荒井須賀神社のパ
ワースポットへ。厳島神社は階段を
下ったところに社殿があり、その周り
を囲んだ池に湧き水が流れ込んでいま
す。昔は荒川からウナギやナマズが
上ってきたそうですよ。
最後は、北袋へ。愛宕神社の境内を
抜け、急な斜面を下ったところが「北
袋の谷津」です。湿地が広がり、その
周りを雑木林がとり囲みます。シオカ
ラトンボやオニヤンマ、林に入るとク
ロコノマチョウなどの昆虫を見ること
ができ、流れている湧き水を覗くとメ
ダカが泳いでいました。

「春には市内最大のエドヒガン（桜）
が花を咲かせ、夏の夜にはヘイケボタ
ルが乱舞しています」とのこと。西側
の「くじらやま」と呼ばれる雑木林に
は野生動物がすんでいて、キツネやシ
カが目撃されています。まさに「北本
最後の楽園」でした！

市の西側には、台地の谷津や荒川の河川
敷といった里山空間が広がっています。
里山は豊かな自然と歴史を今に伝える北
本の財産です。ぜひ散策して、四季折々
の素敵な景観や動植物との出会いを楽し
んでほしいです。

